

平成24年度 徳島県立阿南工業高等学校 学校評価 総括評価票

1 教育目標

- ① 一人ひとりの生徒の個性や多様性を理解し基本的人権を尊重する教育を推進する。
- ② 自ら学び自ら考え主体的に判断・行動できる人間力を育成する教育を推進する。
- ③ 社会の一員としての役割を果たしそれぞれの個性持ち味を最大限発揮しながら自立していくために必要な能力や態度を育てるキャリア教育を推進する。

2 本年度の学校経営目標

- ① 職業人として必要とされる力を身につけた人材を育成し個々の進路実現が図れる学校づくりを推進する。 [学校力の向上]
- ② コミュニケーション能力を身につけ生命・自然・ものを大切にするのできるひとづくりを推進する。 [人間力の向上]
- ③ 専門分野に関する確かな技術及び技能の定着を図りものづくりなどの体験的学習を通して実践力を育成する。 [実践力の育成]
- ④ 地域の活性化や地域産業を担う人材の育成に努め地域との絆を深める。 [地域との交流]

3 総括評価票

自己評価					学校関係者評価		
中期目標	重点目標	目標達成のための計画	評価指標・活動計画	評価指標の達成度・活動計画の実施状況	評価	学校関係者の意見	次年度への課題 今後の改善方策
学校力の向上	①基礎学力の定着を図る。	出張等による授業振り替えや学校行事等の精選・実施方法の工夫により授業時数の確保に努める。	年間の授業実施時数を1単位につき35時間の85%以上確保することを目標にする。	授業実施時数は80%未満であった。	B	◎授業の確保に努め、基礎学力の向上が図られていると思う。さらにスキルアップしてほしい。	次年度は80%以上となるよう学校行事等を工夫したい。
		各教科の「学習指導の記録」の作成・中間評価・最終評価を実施することにより、わかりやすい授業へ改善を促す。	生徒アンケートにより、「授業がわかりやすい」とする生徒の割合を45%以上とする。	授業評価の日程を3月から12月に変更し、授業改善に役立てられるようにした。アンケート結果は、1年36%、2年53%、3年69%、全体49%が「授業がわかりやすい」と答えた。	B	◎わかりやすい授業の生徒評価も向上している。視聴覚機器等を使った授業展開にも取り組んでほしい。	授業評価の方法を本年度新しくした。次年度は周知を徹底して効果的に実施する。
		家庭学習の大切さをくり返し伝え、かつ、学力向上カードの実践や保護者懇談会などにより家庭学習時間の増加を図る。	生徒アンケートにより、家庭学習をしている生徒を40%以上とする。	1, 2学期末に学力向上カードを配布。8月の登校日や始業式、終業式等で家庭学習をしっかりとるように呼びかけた。家庭学習していた生徒は、1年37%、2年46%、3年60%、全体45%であった。	B	◎家庭学習の奨励は厳しいところはあるが、成果は出ている。工夫努力を続けてほしい。	本年度同様、家庭学習の大切さをくり返し伝え、内発的な学習意欲の向上をはかる。また、学力向上カードの取り組みを継続して行う。
		生徒の実態に応じた習熟度別学習を展開する。	生徒アンケートの満足度を65%以上とする。	アンケート結果は、数学1年51%、2年85%、3年60%、全体64%、英語1年47%、2年64%、3年77%、全体60%が習熟度学習に満足していた。	B	◎習熟度学習の成果は向上していると感じる。年ごとに評価指標をレベルアップしてほしい。	1年生での満足度が低いのは学科制により学力差が大きく、習熟度別クラスが2クラスでは対応しきれていないためと思われる。60%以上の生徒が習熟度別学習に満足しているので次年度も実施していく。

	実力テストを実施する。 1, 2年生：国数英, 3年生：国数英社理SPI 作文を全学年とも年間3回実施する。	実力テストと進路実現との関連についてアンケートを実施する。	役に立つと回答 1年67% 2年65% 3年67% 合計67%	B	◎就職・進学等基礎学力は必要である。学力向上に向けて取り組んでほしい。	今年度と同じく実力テストを年間3回実施し、学力向上との関連についてのアンケートを実施する。
	マインドマップノート法を習得させるため講習会を開催し、授業に取り入れる。	マインドマップノート法が学力向上に役立つとする生徒の評価により行う。	役に立つと思う生徒の割合 1年 77% 2年 60% 3年 62%	A	◎MMは特色ある取り組みであるが2年生の満足度が少ない。3年生は進路実現の手段としての活用がある。2年生にも関心の持てる課題にすれば満足度も高くなるのではないか。1年生への啓発・普及に努めてほしい。	来年度1年生にはオリエンテーションの時期に集中して実施する。
	進路補習を実施する。 国語・数学・英語（全学年対象）、社会・理科（2, 3年生対象）	希望生徒を増やし、短期間に集中させて学習効率を上げる。	参加人数及び出席率による基礎学力向上週間は役に立つと回答 1年65% 2年67% 3年71% 合計67% ものづくりHR活動は役に立つと回答 1年77% 2年74% 3年77% 合計76% ものづくりHR活動を全学年実施した。全員がものづくりに取り組んでいた。 評価指標については生徒の意識調査結果によるものとする。	A	◎ものづくりHR活動は非常に良い。感性を磨き細かな作業等により集中力を養うことが出来る。	1.2年生の参加が少なかったが3年生については出席率は高かった。 長期休業中の短期進路補習は引き続き実施し、全体で取り組む基礎学力向上週間をさらに充実させたい。  生徒からの評価が高かったものづくりHR活動については、実施内容をより精選し、HRにおける5S教育（整理／整頓／清掃／清潔／躰）を浸透させ、進路実現や仲間作りなどに役立てたい。
②進路実現を支援する。	情報技術検定・計算技術検定について合格率をあげる。	補習・個別指導を実施する。	合格率は前年並みであった。	B	◎各種資格は社会人になっても必要である。高校時代に取得できる資格は是非多く挑戦してほしい。	各種資格の取得に向けて取り組んでいく。
	3年担任、コース長、進路指導課員が、最新の進路に関する情報を収集し、生徒に適切な情報の提供に努める。	生徒の希望する企業等を訪問し、適切な資料や情報を収集する。	県外のべ47社、県内数十社に出向き求人計画、入社試験概要などの聞き取り調査を行い、生徒に有意義な資料を提供できた。	B	◎1年生から、専門分野の学習を行うことが出来るのでさらに専門性を高めてほしい。	県内企業の訪問先についての検討を年度当初に入念に行い、適切な企業訪問を実施する。（生徒の希望が出ない可能性の高い企業への訪問をどうするか？）
	生徒の能力・適性を生かした進路指導と進路選択の支援を行う。	進路説明会や進路講演会実施による進路選択を支援する。 三者面談・応募前職場見学・進路先資料を公開する。 採用実績を考慮に入れ	・受験企業57社中43社が応募前企業見学が可能であり、その内およそ9割の39社の応募前見学に参加した。昨年度は8割であった。 ・一次募集の内定率が82%（67/82）であり、まずまずの成果であった。昨年度は88%、一昨年度は75%で	A	◎卒業生の就職しての状況を多くの情報を生徒に知らせてほしい。卒業生の講演等機会を多く開催してほしい。早期の進路実現へ取り組んでほしい。	・本当の意味での応募前企業見学（面談で決定する前の見学）が実施できる環境作りの検討を行う。 ・今年も不採用の理由は学力不足が目立った。今まで以上に基礎学力向上に有効

		た進路選択による内定率の向上を図る。生徒アンケートによる評価を行う。	あった。			な手段を考えたい ・進路説明会への保護者の参加率を向上させる方法の検討を行う。
③積極的な広報活動を推進する。	ホームページの内容を充実させるとともに、定期的に更新し最新の教育活動を広報する。	最低毎月5回以上ホームページを更新する。	2月26日現在ホームページ更新は103回である。一月平均9.4回更新されている。	A	◎ホームページの有効活用を進めてほしい。	各担当者がホームページ更新しやすいよう啓発、技術的なサポートを行う。
	企画課と連携し学力向上関係のトピックスを広報する。	年1回以上ホームページに掲載する。	1年生を対象に行ったマインドマップオリエンテーション、夢・未来育成事業等、学力向上について広報を行った。	A	◎多くの人がホームページを見ていると思う。広報の良い手段である。	年度当初の計画を把握し企画課と連携を密にして広報に努める。
	本校の教育内容や教育活動について、中学校に対し説明する。	訪問校を前年度より増やす。	学校教員説明会を6月29日に実施した(参加校24校)。また、7月～11月に19校の中学校を訪問し学校説明をした。	C		中学校教員説明会は昨年度と同数の学校に説明した。次年度は学校案内の内容を検討し、より効果的に広報していきたい。
④学校開放を推進する。	中学生とその保護者を対象とする体験入学の内容を充実させる。	参加者を前年度より増やす。	昨年度：23校110名 本年度：23校101名 (生徒+保護者)	B	◎来校者を増やす手立てを考えていただきたい。	日程が3級技能士検定及び近隣校と重なり調整が必要である。参加中学生のアンケート結果も進路決定に参考になったと答えた中学生が94%と良好であった。次年度も実施する。
	”徳島教育の日”に合わせ、中学生とその保護者、近隣住民に対し、公開授業、施設開放などを行う。	参加者を前年度より増やす。	11月10日に学校説明会と施設見学会を実施した。本年度は中学生11名、保護者・地域住民35名の参加であった(昨年度はそれぞれ3名、47名)。	B	◎多くの機会を捉えて学校開放し阿南工業高校を地域住民保護者中学生等に知ってもらふ必要がある。	阿工祭の時に実施している。次年度は中学校での学校説明会で積極的に広報し、参加中学生数を増やしたい。
	文書案内だけでなく情報ネットワーク課と連携し学校ホームページ上でPTA活動の案内を積極的に行う。	PTA活動のすべてをタイムリーに広報する。	企画段階で日取りや日程の調整に翻弄され文書案内の段階で終わってしまい情報ネットワーク課との連携が不十分で当初の計画を達成できなかった。	C		年度当初において情報ネットワーク課と話し合いを十分に行い学校ホームページ上へのアップロードをスムーズに行えるよう工夫する。
	PTA活動を活性化させることにより保護者が気軽に来校できるような学校づくりを推進する。	PTA総会各種研修会などへの参加人数を昨年度以上に増やす。	保護者の人権問題研修およびPTA総会出席者は昨年度の49名から今年度は67名 進路説明会は41名から56名へと増加した。また体育祭や阿工祭のサポーターとしての保護者の参加も増加	A		保護者が気軽に来校できるあるいは来校したくなるような魅力的なPTA活動を展開しPTA総会各種研修会等への保護者の参加人数を昨年度以上に増加させる

			しており昨年度以上に達成できた。			ことによりPTA活動を活性化させる。
⑤校内教職員研修の充実を図る。	各課と連携し校内研修の充実を図ったり、MM法を取り入れた授業力向上のための校内研修を実施する	昨年度以上の研修を実施する	校内研修としては、MMコーチング研修、人権研修、コンプライアンス研修などを実施した。	A	◎生徒の興味関心を引くような授業を展開するための教材研究・授業の手法を考えてほしい。	今年度以上の校内研修の活性化を図る。
	教員のマインドマップ活用能力向上を図るた。	公開授業を全クラスで実施する。教材研究会を組織し、教材の研究を年3回以上実施する。	初任者研修や3年次研修に係る研究授業には多くの職員が授業参観した。	B		公開授業教材研究会等実施する。
⑥情報セキュリティ対策を推進する。	情報セキュリティポリシーを遵守する。	職朝を積極的に活用しセキュリティに対する意識の向上を図る。	情報セキュリティに関する全体研修を1回実施。職朝を含め機会を捉えてセキュリティ確保のため啓発を行った。	A	◎情報セキュリティは、工業高校の特性を活かして今後も対策を推進して欲しい。	情報セキュリティ監査で指摘された「発送確認記録簿作成」、「紙媒体についても情報資産持ち出し管理シートに記入が必要」の2点を職員に周知徹底する。
⑦事業の実施による活性化を図る。	『阿工 エース(Activity(活動) Creation(創造) Education(教育)プロジェクト』をテーマとして取り組んでいる創造性に満ちた教育活動を通して小中高特別支援学校・地域との交流を深め地域の活性化や発展に寄与する。 地域防災の拠点校として住民との防災訓練を行うと共に本校敷地内の避難誘導・施設の整備や災害時に役立つ知識や技能を学び地域の防災リーダーの育成に努める。	自分の夢や進路希望の実現を図ることのできる豊かな人間性や社会性を身につけた地場産業を担う人材の育成に努め地域との協働化及び地域力の向上を図る。  地域の防災拠点「阿南工業高校」の整備を図り地域住民との避難訓練・防災講演会等積極的に行い地域防災教育の拠点となる取り組みを行う。	◎スタディーゾーン ◎キャリアプランニングゾーン ◎テクニカルゾーン ◎スポーツ・文化・ボランティアゾーン ◎環境・防災教育ゾーン それぞれのゾーンにおいて工業高校としての特色ある活動を積極的にアピールすることにより地域に根ざした地域に貢献した。産業界を担う未来の小・中学生への啓発活動の実践により地元で活躍できる産業人の育成に繋がった。  LED誘導灯の設置避難経路表示板防災マップアマチュア無線の普及等を行う。	A	◎プロジェクトにより学校全体の取組を知ることが出来有意義ではないか。来年も是非継続していく必要がある。 ◎小学生バレーボール教室では、保護者の評判大変良い。保護者間で口コミで良い評判を伝えてもらうような取り組みをさらに続けてほしい。  ◎防災訓練等通じて工業高校の良さをアピールすべきである。 ◎個々の創造力・企画力の向上に努めてほしい。	生徒たちのコミュニケーション能力の向上自己肯定感勤労観・職業観の育成に繋がり地元企業と連携したキャリア教育を推進する。  地域と連携した防災教育の推進により地域防災の将来の担い手を育成する。
⑧部活動の活性化	全員加入を目標とする活気ある部活動を実施する	昨年度実績(%)以上の入部率が向上するよう指導する。	昨年度を上回る92%の入部率であった。1年生の入部率が例年より高かったことが要因である。	A	◎部活動の活性化は、学校全体の活性化につながる。より多くの生徒が部活動で活躍できるようお願いしたい。	入部はしているものの活動ができていない生徒も多く活気ある活動ができるよう指導していく。
	自主活動の充実と活性化をはかる。	週2回の校内活動を70%程度を目標とする。	年間を通して継続的に活動することができた。			来年度は活動内容をさらに充実させ、部員の増員をは

		あこう研究会の活動を充実させる。			A		かりたい。 来年度も同様に参加できるようにしたい。
			「南部ブロック生徒部会」、「中・高生による人権交流集会」等に70%程度参加させる。	「南部ブロック生徒部会」、「中・高生による人権交流集会」のすべての活動に参加することができた。リーダー的活動もできた。			
人間力の向上	①基本的生活習慣の確立を図る。	規則正しい生活に心掛けるよう指導し遅刻をなくす。遅刻時の声かけ、月遅刻6回以上生徒の特別指導（生徒課長・学年主任・コース長）	1日の学校全体の遅刻数を7回以内にする。（平均）	1ヶ月に5回遅刻した生徒には係より遅刻防止の作文を書かせ、6回以上遅刻した生徒には生徒指導主事より話をしたり作業をさせるなど指導をしたが、歯止めになって頑張った生徒も見られるが改善されない生徒も多い。	C	◎阿工生は、礼儀正しく挨拶も良くできている。健康管理等の自己管理もできている。将来への進路にもつながる。何事にも前向きにチャレンジしてほしい。	基本的な生活習慣確立のため規則正しい生活に心掛けるよう指導し、遅刻をなくす取組を行う。
		積極的に明るく元気な挨拶が出来るようにする。（パワフル週間、学校安全の日）	すべての生徒が挨拶が出来る。	月の初めにパワフル習慣をもうけ挨拶運動を行った。ほとんどの生徒がさわやかに挨拶ができていたが音楽を聴きながら登校する生徒など気がつかない場合もある。安全面からも指導が必要である。	B	◎人間力の向上が必要である。規律正しい生活、挨拶の徹底に取り組みさらなる向上を図ってほしい。	今後も継続していきたい。
		頭髪・服装を正しくし爽やかに生活する。（全校集会における頭髪服装指導と継続的な指導）	頭髪服装検査を月1回を実施し、1週間以内に改善を要する生徒を30人以内にする。	1週間以内には改善はされているが改善が必要な生徒は多い。全体指導において身なりをただすことの大切さを理解させる指導を行った。しかし担当教員と話し合い人間関係を構築し学年があがるごと努力しようとするようになっている	C		服装指導の日のみただすのではなく常に清潔感ある服装・頭髪ができるよう指導が必要。
		遅刻防止に取り組み、時間を守る事の大切さを再確認し、基本的な生活習慣を身につけさせる。毎月の遅刻回数が5回以内となるよう、家庭との連携を図りながら学年全体として指導する。	1学年の年間遅刻回数を240回以内となるよう、各クラスで取り組む。遅刻の多い生徒に対しては、学年としても個別指導を行う。	2月25日まで遅刻回数419回同じ生徒の遅刻が多い。家庭と連携して遅刻を減らすように絶えず努力を行った。	B	◎社会人になれば遅刻は許されるものではないことを理解させる。本人の意識改革が一番である。	昨年度より遅刻回数は大幅に少ないが、目標を達成することは困難であった。きめ細かな指導を心がける。
②人権意識の高揚を図る。	「人権を確かめる日」、「人権教育統一ホームルーム活動」の充実を図る。	人権感覚を深めるため、「あわ」人権学習ハンドブックを7回程度活用する。	「人権を確かめる日」5回ホームルーム活動では、すべてにおいて参考資料として活用した。	B	◎人権教育は、大切であるので、学校教育のあらゆる分野で取り組んでほしい。一人ひとりが尊重される社会実現、学校教育を推	来年度も同様に活用できるように計画・実施したい。	

	学校の教育活動全体をとおして、人権尊重の精神を訴える。	生徒の人権学習アンケート等の評価を65%程度にする。	3年生のアンケート結果より「人権学習ホームルーム活動はとて有意義であった」と答えた生徒は77.4%であり、満足していると思える。	A	進してほしい。	人権意識の高揚と問題解決に対する態度をさらに高めるための指導を計画・実施する。
	公正な採用選考のあり方について理解させる。	校内で行う管理職面接で、「就職差別につながる」とされる14項目に抵触する質問を受けたとき、指導したとおりに答えることが80%以上になるよう指導する。	ホームルーム活動・各コースでの指導の成果もあり、おおむね達成できた。	B		来年度も同様に徹底した指導を行いたい。
	校内人権教育教職員研修の充実をはかる。	ホームルーム活動打合せ・教職員研修会に80%以上参加する。	ホームルーム活動打合せ・教職員研修会は10回の実施ができたが、参加割合が低かった。	B		教職員の研修会参加率を増加させるために、研修方法の改善が必要である。
	学校行事として講演会の内容を充実させる。	人権問題に関する生徒講演会を実施する。	鳴門教育大学より佐藤先生を招いて「刑を終えて出所した人の人権」について講演を実施した。	B		来年度も講演会を実施したい。
③環境教育を推進する	校内美化を徹底する。	毎日の清掃の徹底 (清掃出席簿を作成する。) 月に1回の大掃除	出席率は95.0%であった。	B	◎環境整備は大切である。 ◎省エネルギー・エコ活動への取り組みをさらに推進してほしい。	清掃出席簿を作成する必要がある。 さぼる生徒への対応をどうするか。  WAXがけの日程を検討して年2回の実施はしたい。 7月と2月がよいか。
		教室のワックスがけを年間2回以上とする。	ほとんどのクラスが1回であった。			
		年に2回の全校除草(技師との連携) 専門棟は各コースで実施する。	1回の除草作業であった。まむしに似た蛇の出現のため取りやめた。			
	循環型社会形成の推進	教室等のゴミ資源を6分類するための、資源箱の設置 学期に一度ゴミ袋内の分類程度を確認する。	ペットボトルは99%の分別率であった。 可燃ゴミの分別率は95%であった。	B	◎工業高校としての特色ある取り組みを推進してほしい。	分別率100%への課題を分析する。  放置するとすぐ不燃や粗大が山のようになるので定期的な検査が必要だ。
資源ゴミの分別を徹底する。	雑誌資源をリサイクルに出す。	ゴミ資源校内集積場の整備 月に一度ゴミ資源の集積状況調査	毎月調査した。 デジカメで写真をとる。 不燃や粗大がやや増加気味である。			
		雑誌資源の集積場所の確保	毎月調査したが雑誌がごみ集積場に出たことはなかった。			年に1回は古紙回収を要する。

		年に1回の雑誌の古紙回収依頼	12月に古紙回収を業者に収集を依頼し実施済み。			
	省エネルギーへの取り組み	電気使用量を前年比で減少させる。 水道使用量を前年比で減少させる。	電気は増加傾向にあった。対前年比で下回ったのは6月と2月であった。水道は連続で減少しておりその成果は自画自賛だが素晴らしい。			どこまで電気や水道の使用量を減らせるか 適正使用量を検討する必要がある。
	環境問題講演会の実施	3年サイクルで環境問題の重点課題が理解されるよう講演内容を検討する。地球規模で考え、地域に根ざして実行できる人間の育成に努める。	地域の方々保育所幼稚園児等参加しての防災訓練・講演会を実施した。	B	◎講演等の開催により知識力の増進に努め、自身のスキルアップにつなげてほしい。地域とタイアップした取り組みを進める必要上がる。	環境と防災の両方の講演会を各1回実施する必要がある。
	環境問題標語・ポスターの募集	全校生徒対象に実施する。	クラスにより集まりが悪いのと良いとの差が大きすぎ全体としてはよかった。			宿題の出し方を検討する。
	課題研究のものづくり に5R運動を取り入れ、環境に対する生徒の意識を高める。	各科から出される廃棄物について分別を行い、一定期間保存する。その中から利用できるものは、施設の補修、課題研究などの実習等で利用する。生徒の評価を6割程度にする。	廃材の分別は概ね出来たが修理により使用可能な機械や工具類はたくさんあり現状のままであった。	B		工業高校として5S運動に力を入れ環境に配慮したものづくりに取り組む。
④安全教育を推進する。	防災教育 火災時の初期消火と避難、人員確認 地震時の避難と人員確認	○いつでも、どこでも安全に避難し、人員が確認できるよう体制を整備する。	登校者全員の集合を確認できた。担当者との連携も十分に図ることが出来た。	A	◎災害時の危機管理は大変重要であるあらゆる場面を想定して地域と連携した防災活動に取り組んでほしい。	緊急避難訓練はやはり必要である。今後も地域の方々と協力して防災訓練に取り組む。
		○避難訓練をより実践に即した方法に改善する。	地域の方々との共同の防災訓練を実施した。			
		○電話等連絡網が寸断されたときのための携帯メール網を確立する。	教職員共通理解のもとメール網の確立を実施しテストも毎月始めに行っている			
交通事故0をめざす。	原付の実技指導、講演会、自転車点検等を行う。	自転車点検街頭指導を定期的に行った。届けを受けた自転車事故は減少した。 原付免許取得者に実技講習を阿南自動車学校で行った。原付事故も届け	B	◎自転車事故は加害者になることも起こりうる。ルールをきちんと教える必要がある。	ゆとりを持って登校するよう指導が必要である。 ヘッドホン・イヤホン着用の生徒が多いので指導が必要である。	

			られていない。			
⑤健康教育を推進する教育相談の充実	円滑な教育相談活動を実施するために教育相談の広報活動を行う。	教育相談室を毎日開室する。“教育相談だより”を発行する。	教育相談室を開室したが利用状況や生徒の状況により他の機会の教育相談で対応に切り替えた。教育相談だよりを2回発行した。保健だよりを10回発行し。保健に関する啓発を行った。	B	◎心のケアをしっかりと行って欲しい。	教育相談室を毎日開室する。
健康管理の指導	自らの健康管理ができるように、継続的な保健指導を行う。	繰り返し保健室を利用する生徒の数の減少を図る。	頻回来室者の生徒の保健指導を行った。休み時間内や放課後の保健指導を行った。	B		保健だより等で保健に関する啓発を迅速に行っていく。
食育の推進	食に関する知識と食を選択する力を習得させる。	食育に関する講演会を実施する。	食育講演会を1回実施するとともに関連した調理実習を2回行った。	A	◎調理実習は良い試みである。次年度も続けてほしい。	掲示資料を通して食育に関する情報を発信する。
⑥図書館の利用者数と貸出冊数を増やす。	図書館便りを定期的に発行したり、新入生にはオリエンテーションを実施する。	来館者を増やす。	昨年度 2,560 人 今年度 2,540 人 (3/1 現在)	B	◎読書離れが叫ばれているなか、知識技術を身につけるためにも読書は必要である。より多くの生徒が読書をする機会を設ける必要がある。	特定の生徒が本を借りている傾向が見られるので、多くの生徒が借りに来る取組を行う。図書委員による図書館便りの定期発行を実施したい。
		生徒1人あたりの貸し出し冊数を増やす。	昨年度 2.5 冊/人 今年度 3.5 冊/人			
⑦特別支援教育を推進する	特別支援教育についての研修を充実させ、効果的な支援をめざす。	特別支援教育についての校内職員研修会を実施する。	特別支援教育についての校内職員研修会を2回実施した。特別支援教育推進委員会を2回行うとともに職員が生徒の実態把握ができるように調査を行った。	B	◎一人ひとりのニーズに応えることのできる教育を推進してほしい。	調査結果を踏まえて校内の特別支援体制を整える。
⑧特別活動の活性化を図る。	競技力の向上を目指す。	前年度を上回る成績や、活動実績を上げる。	全国大会に出場できている部はもちろん県大会で上位を目指す部活動もふえてきている。	B	◎部活動への取り組みをさらに活性化してほしい。 ◎活躍している音楽部（三味線）への新入部員の勧誘に力を入れ存続を願う。文化部は指導者が必要であるので確保できるようにしていただきたい。	その競技を指導できる顧問の適正な配置が成果に大きく関与している。実績だけでなく生活面の指導に取り組んでいきたい。
	生徒が自主的に活動できる生徒会の育成	生徒会主催行事を年5回以上実施する	昨年度から始めた3学期の球技大会や体育祭など体育的な行事は積極的に行えた。	B		自主性を高めるために生徒会による立案ができるように指導していきたい
	体育祭、文化祭の充実	文化祭での来校者数が昨年（300人）を上回るよう実施する。体育祭で近隣の保育所、幼稚園等と交流を行う。	文化祭の来校者は昨年を上回ることができた。これは前日の地域防災講演会による告知が地域に浸透していたと思われる。また体育祭での交流も例年通り行えた。	C	◎生徒が自主的に活動する機会を多く増やしてほしい。	文化祭の内容も少しマンネリ化しているように思われる。内容を見直し多くの方に学校を知ってもらえる機会になるように考えて行き
⑨ボランティア	ボランティア活動を通	校外でのボランティア	老人ホームへの車椅子の寄贈修理三		◎社会貢献することにより	引き続き実施する。



	ティア活動を推進する。	し地域や世代を超えた交流を行う。	を年3回以上行う。	味線による演奏を実施した。地域清掃活動一輪車自転車大会への補助を行った。	A	地域になくてはならない阿工生として根付いてほしい。	
実践力の育成	①ものづくりの技術・技能の向上を図る。	地域における技術技能に卓越した外部講師による技術講演会や技術講習会を開催する。	生徒アンケートによる評価を行う。	厚板溶接技術アルミ溶接技術の講習を外部講師を招聘して生徒と教員が一緒に行った。	B	◎いろいろと取り組んでいることをもっとPRすべきである。	技術指導向上に向けた研修会を次年度も実施する
		新技術に対応できる教員の資質向上を図る。	学校外の研修に積極的に参加する。			◎ものづくり技術が生かせる取り組みは生徒の自信につながるものである。	
	②ものづくり技術を生かす。	旋盤作業、電気工事作業、測量競技など高校生ものづくりコンテストに出場する。	県におけるコンテストで上位の成績を収める。	県大会旋盤は1位電気工事は3位測量競技は2位の成績であった。旋盤部門は四国大会出場を果たした。	B	◎連続しての優秀賞は素晴らしい。	次年度も上位入賞し、四国大会出場を目標に指導する。
		ものづくり技術や工業技術を生かしたロボット競技会など各種競技会に出場する。	各種競技会で上位の成績を収める。	溶接競技会四国大会において準優勝ロボット競技では全国大会に出場した。		◎溶接のコンテスト等さらなる活躍を期待したい。	
	③産学官連携を推進する。	地域の企業・市役所やものづくり技術を活用した取り組みを行う。	地域の企業・市役所2社以上と連携する。	日亜化学工業株式会社や阿南市役所など4事業所と連携した取り組みを行った。	A	◎産学官一体となった取組により生徒たちの意欲の向上につながると思う。	連携による効果は非常に大きいので次年度も実施する。
	④安全作業教育を推進する。	各コースの実習等において、事故やけがが起らない指導に努める。	実習前の健康や作業服等の確認、注意指導を徹底する。	毎時間ほぼ全員が正しくできていた。安全ゴーグルを新しく、100%着用を目指した。	A	◎安全教育の徹底を図ってほしい。	安全教育は次年度も徹底して行う。安全対策の重要性を理解させるとともに命の大切さを指導する。次年度も何の異常もなく使用するために、日常点検を欠かさない。
		実習場の機械や装置を整備し常に安全に作業できるように努める。	実習機械の点検や整備を行い、不備な箇所については安全対策を講じる。	1年間異常なく安全に実習できた。服装の確認や作業手順・ルールを徹底しており、事故やけがはなかった。		◎安全で安心してものづくりに取り組むことの出来る環境づくりを行う必要がある。	
	⑤阿工版デュアルシステムの充実を図る。	2学年全員参加の短期インターンシップを実施し、生徒の進路希望や学習内容に応じた企業先で体験できるようにする。	成果発表会を実施するとともに受け入れ先企業や参加生徒のアンケート等により評価を行う。	事後指導のアンケート結果で4.2を得た。参加者全員が発表した。	A	◎授業で習ったことが生かせる事業所でインターンシップを実施するなどして成果が上がっていると感じる。	生徒の進路に結びつくようなインターンシップを行う次年度も成果発表会を行う。
		3年希望者が参加する長期インターンシップを実施し、職業意識を育てる。	受け入れ先企業や参加生徒のアンケート等により評価を行う。	参加者全員年真に取り組んだ			

	⑥望ましい職業観・勤労観の育成を図る。	企業見学や現場見学を通して職場の状況や働くことの大切さを理解させる。	生徒アンケートによる評価を行う。	建設現場見学会を実施することができた。今年は、建設業協会の人に見学態度が良いと褒められた。	A	◎実体験することはすばらしいことである勤労観等の育成につながる。	次年度も建設現場見学会は実施したい。
		卒業生や企業経験豊かな社会人講師の活用により、働くことへの意欲の向上や職業に対する意識の高揚を図る。	生徒アンケートによる評価を行う。	学年末に卒業生を迎えて、進路セミナーを実施した。		◎より多くの卒業生に学校にきてもらって仕事の状況等話をする機会を多く持つてほしい。	直接先輩の話を聴くことは有意義で、次年度も実施する。
	⑦起業家精神を育成する。	模擬株式会社「鉄男」を設立し生産から管理販売までの一貫した起業家教育を展開する。	ビジネスプランどおりに運営ができたか生徒による評価を行う。	ビジネスプラン通りに実施出来た。売上金で車椅子ボランティアも実施した。	A	◎キャリア教育には欠かせない取り組みである。	車椅子ボランティアが出来るよう取り組みを次年度も実施する。
	⑧資格取得を推進する。	工業の基礎技能である計算技術検定、情報技術検定3級について、一斉指導、個別指導、補習を実施し合格をめざす。	合格率をあげる。	合格者は例年並みであるが、受験者数は増えている。	B	◎多くの生徒が資格に挑戦するようにして欲しい。合格率のさらなるアップを期待する。	年々学力が低下している。資格に対する意欲も乏しい生徒がコースに集まっているが地道に指導を続けていく。
		工業に関する専門の資格や検定の取得を推進するとともに、補習を計画的に実施し合格をめざす。	昨年度以上の合格者数、合格率を目指す。	第二種電気工事士試験電験3種工事担任者の補習の参加率は80% 2級土木施工管理技術検定試験の受験者数は減少したが、建設系の技能講習の受験率は格段に上がった。	B	◎第2種電気工事士のクラス全員の合格は素晴らしい。他の生徒に対してやればできるという自信につながる。	第二種電気工事士60名 第一種電気工事士10名 電験三種0名 工事担任者1名 今年度は第一種電気工事士の合格者が2.5倍になった。補習をより充実させる。
		資格・検定の取得に向けた教材づくりを行う。	MM教材、CAI教材など自学自習ができる教材を教科・コースで作成する。	研究授業や製図などではICT機器をよく利用した。		◎資格は取得していて損はない。前向きにチャレンジさせてほしい。	ICT機器利用の促進をさらに図り、わかりやすい授業を展開する。
地域との交流	①地域貢献を推進する。	ものづくり技術を生かし近隣の小学校等で生徒による出前授業を実施する。	出前授業は5校以上の実施を目指す。新しい学校との連携に取り組む。	ロケット教室の実施は1校にとどまった。	C	◎小学生と連携することにより工業のおもしろさを小学生に伝えることが出来将来産業界の担い手の育成につながる。	より多くの小中学校に出前授業できるようにする。
		ものづくりの楽しさと学校理解を図るため「ものづくり親子教室」等を開催する。	参加した小学生親子のアンケートによる評価を行う。	MM親子体験教室を実施した。	C		好評であった。来年度も実施する。
		地域や小中高等のニーズ把握を踏まえたもの	該当者への満足度などのアンケート調査によ	防球ネットの製作など、地域の学校と連携したものづくりを行い、好評		◎ものづくりを通して地域貢献を学ぶことが出来る。	ものづくり力向上のためにも、次年度も実施する。

		づくりを通して地域貢献、学校間連携を図る取組を実施する。	る評価を行う。	を得た。 ブックエンド自転車置き場の看板などの製作を行った。	C	非常に良い取組である。	
		防災関連製品を製作し地域へ応える。	要望に応えられたかアンケートより60%以上の満足を得る。	避難誘導灯・家具転倒防止金具・軽量リアカーなどを製作し、防災訓練で地域の方々に高く評価された。	B	◎防犯用品は必需品である 今後も地域に発信・提供してほしい。	地域からの関心も高いので、次年度も実施する。
阿南寮の運営	① 基本的な生活習慣の確立を図る。	寮の生活時間を守らせ、遅刻、欠席の防止を図る。名札掛の運用により生活状況を把握するとともに寮生自身に自己の生活管理をさせる。	出席状況を昨年度と比較し良好にする。遅刻5%以内にする。	生活時間を守る指導及び健康観察が定着し、昨年度より出席状況が良好になった。登校前の巡視や一人ひとりに対する声かけにより、遅刻率5%以内を達成できた。	A	◎遅刻が少なくなる取り組みが定着しつつあると感じる、さらに指導をお願いしたい。	次年度は名札掛の運用方法を改善し集団の一員としての自己管理力の向上を図る必要がある。
	② 自主学習の習慣を定着させる。	進路実現に向けた自主学習習慣の確立を図るため、自習室を活用させるとともに所属校との連携を図り、成績不振者の把握や個人面談を行なう。	月に1回各校の行事予定を掲載した「生活学習記録表」を作成し、各自に記録させ学習管理をさせる。各校とは学期に1回成績状況を把握するための訪問を行う。	所属校との連携を図り、成績不振者への個人面談の実施、自習室の冷房、舎室の暖房使用時間の延長による学習環境の改善により、女子及び一部男子の寮生については、学習習慣が定着してきた。「生活学習記録表」は実施している学校もあり、寮では実施できなかった。	B	◎保護者の元を離れての寮生活は大変であると思うが、さらにその生徒を1日中指導する先生方の苦勞が多いと感じる。生徒のためのさらなる取り組みをお願いしたい。	審査期間中、十分な学習ができていない寮生がみられる。今後は日常的な学習への意識付けが必要である。
	③ 美しい寮の環境をつくる。	定期的に清掃を実施するとともに、ゴミを阿南市の分類に沿って分別する。	各舎室の清掃状況を週に1回点検する。舎室以外の寮内清掃を週2回(月・木)に行い、大掃除を学期に1回実施する。ゴミの分別を点検する。	寮内環境点検(週1回)、一斉清掃(週2回)及び大掃除(月1回)を実施した結果、浴室・トイレは使用状況も含め美しくなった。職員による学期に1回の大掃除・環境整備を実施した結果、昨年度より美しく安全な環境になった。	A		常に身の回りの整理・整頓を行い、災害時に迅速かつ安全に避難できる環境を整備する必要がある。